

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2272300861 | | |
| 法人名 | 有限会社みなみ風 | | |
| 事業所名 | グループホームみなみ風 | | |
| 所在地 | 富士市伝法1773-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年10月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年11月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272300861&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社システムデザイン研究所 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年10月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期までその人らしく、人として当たり前の生活を過ごす、支援をする。その人の存在を認め、一緒に生活する。
そして生きてきた人生を肯定し、出会えた喜びを共感しながら人生の幕引き家族としてお手伝いさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を眺める郊外の住宅地に立地し、付近には農地も多く残っている。自治会からはサロンの案内があったり、非常通報ベルの誤報にも近所の人々が駆けつけてくれるなど地域に根付いた関係ができています。創業者の「みな一緒(共生)」という考えのもと、併設している小規模多機能事業所では障害者の利用も開始し、地域で高齢者や障害者が共生できるよう試みている。今年度は、職員からの自主的な意見を反映して、小規模多機能事業所と合同で運動会を開催するに至った。保育園や幼稚園も近くにあるため、今後は地域で一体となった合同でのイベントも企画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 日々の暮らしの中で理念に副うケアをする努力している。 | 朝のミーティングで理念を確認している。職員一人ひとりが理念をベースとしている対応の為、利用者が落ち着いて生活できる。職員の個性を尊重しつつ、全体の目標として理念が活かされている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入、日々の挨拶、イベントの参加 地域の活動へ参加している。 | 夏祭りなど合同で開催し、近隣からの参加者もある。月1回公民館で開催される「サロン」への誘いがあり、軽いリハビリテーションや交流の機会になっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議、キャラバンメイトとして認知症の理解や支援方法はなしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回市役所、民生委員、地域の方、ご家族の方地域包括の参加により、少しでもよいサービスをしようと心がけている。 | 併設する小規模多機能事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。運営推進会議を契機に防災訓練で地域の協力が得られたり、自動車の走行において危険な個所を確認するなど、地域に密着した意見が上がっている。 | 新しい試みや行事について、運営推進会議で事前に諮る機会が増える事を期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市との連絡を密にするよう努力して取り組んでいる。 | 高齢者や障害者の支援について行政窓口で相談することもある。グループホームでの連絡協議会に参加し、持ち回りで講師を引き受けるなどの連携をはかっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は勿論のこと、動き回る方に対しても危険のない寄り添うケアを実践している。 | 身体拘束ゼロ宣言を継続している。外出したいという希望があれば職員が後ろから付添い、近所の見守りもあるので安心して行動することができている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々話し合いの中で職員へ啓蒙している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在活用に至るまでの方はいらっしやらない。 色々の場面に活用できるよう学んでいく姿勢はある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に説明し問題点はその都度説明、納得してもらおう努力している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームページに苦情箱を設置、月1回のお便りに下線をもうけ誰が記入したか分からないよう意見を書き提出してもらうように努力している。 | 運営推進会議に参加してもらえるよう、家族に呼び掛けている。また、家族が来所した際には直接声をかけて、相談しやすい関係づくりを築いている。 | 家族会を活性化し、家族間の交流が増えることを期待する。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングを利用し意見、提案を聞いている。 | 個人面談を年2回定期的におこなっている。職員会議では各職員から事前に意見を記入してもらっているが、意見をはっきりと表す職員は限られているため、管理者から職員に働きかけている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 出来るだけやりがいの持てる職場に行きたいと日々努力している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修、ミーティング、朝の申し送り等を利用し職員間で共有しながらトレーニングしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のGH交流、研修を行いサービスの向上させる取り組みを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式を利用し、職員間で問題を共有しながら信頼関係を構築している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の訪問、又は電話にて要望を聞きながら、少しでも不安が軽減できるよう努力している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族の意向を契約時、または「その時」に聞きながら支援している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が介護しているという立場ではなく、共に助け合いながら一緒に生活する仲間の関係づくりをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族との関係が切れないう、利用者にとって家族はとても大切な人であることを常に考えて安心できる関係を築く努力をしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なじみの人の訪問、家族との外出は自由にしている。 | 玄関を開放しているため、知人や友人の訪問もある。家族との関係が途切れないように、利用者や家族の気持ちを汲み取りながら支援し、可能な限り実現できるようにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互い支援しあっている姿が見られる。利用者同士喧嘩をしたとき、話しやすい人のところで愚痴を言っていることがある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族より相談の電話をいただいたり、急な訪問もたまにある。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者さんとの会話、表情の中から、またご家族の希望を直接伺いなるべくご本人の意向を汲むことができるよう努力している。 | 利用者ごとの生活歴からの聞き取りも大切にしている。センター方式のシートを手書きで作成することで、利用者をよく観察し個性を發揮することができるようになってきている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族、ケアマネより情報をもらう。またセンター方式を活用しながら把握に努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | センター方式の活用、日々の生活記録を通して把握をしている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 必要時あるいは、定期的にカンファレンスを行い、計画の見直しを行い、家族、本人の意見を聞きながら作成し、変化のあるときは職員に伝えるよう努めている。 | 計画は3ヶ月ごとに更新している。計画作成に際し、職員が全員で話し合っている。家族にも説明しているが家族からの意見は少ないため、面会時などの何気ない会話の中から意向を把握している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録に記入し、ミーティング等を利用し情報を共有している。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 「…ねばならない。」という考えをなくし、その時々各利用者に必要なケアができるよう努力している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 住宅地の中にあり、近くに公園、幼稚園があり、散歩等している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2度の往診を受けている。本人や家族の希望があればかかりつけ医を受診できるように支援しているが、ホームの契約している医院に移行する人がほとんどである。 | 予め家族の同意を得て協力医に変更することが多く、受診には職員が同行している。受診の結果は「申し送りノート」や個人ファイルに記録している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 朝のミーティングに看護師も同席しており、必要時指示をしたり、また介護職より報告を受けている。また看護師も普段より利用者さんの介護をしている。適切な支援が受けられていると思う。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 往診時、医師に情報提供をし、関係作りを努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者、家族には、重度化した時、ターミナルケアについて説明しながら、関係者と共に共有しながらチームで取り組んでいる。 | 協力医による24時間の対応が可能になっている。ターミナルケアの体制も整い、家族や医師と相談しながら終末期医療を整えている。経口摂取できなくなってもグループホームで生活を続けてほしいとの希望もあり、経管栄養等で生命を維持することもある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティング等でマニュアルを利用しながら、または現在入居者さんの起こりうることを事前に勉強している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回いろいろな場面を想定しながら訓練を行い、災害に対する行動意欲を高めている。 | 訓練は事前に消防署に届け出ている。防災について地域との連携はまだ途中にあるものの、施設で誤報があった時には近所の人々が駆けつけてくれた。災害時に備え、毛布や非常食などを蓄えて万が一に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩として尊重し、家族であるという思いを意識した話し方で接し関わりを充実させているが馴れ合いにならないように努めている。 | 入所時に家族と話し合い、合意が得られれば「～様」とは言わずに「～さん」「～ちゃん」と親しみを込めて呼ぶようにしている。しかし、砕けた会話にならないように職員に指導している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 束縛せず、返答がゆっくりの方でも落ち着いてせかさず、相手の返答を待つ姿勢を心がけている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 理念を念頭に置き、出来る限り利用者の望む方向で過ごせるように支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 櫛をわたし、自ら髪をとかしてもらったり、お出かけに口紅をつけたりして利用者さんに喜んでもらっている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューを聞いていたり、出来ることのお手伝いをしていただいている。六角形のテーブルを皆で囲み一緒に食事をし、その方に合わせた食べやすい大きさに刻んで食べている、食事の時間をたっぷりとり、食後の会話も楽しんでいる。 | 手作りのメニューを提供している。六角テーブルで職員とともに食事と歓談を楽しんでいる。家庭的な雰囲気があり、皆で協力して片付けている際に「この家族は…」と「一家」であるかのように話す利用者もいた。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員も一緒に食べており、利用者さんの摂取量がわかる。不足しているのかな？と思う時は好きなもので調節している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアはしている。まずは利用者さん自らしていただき、出来ていない部分については職員がフォローしている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 生活のリズムの中でトイレの習慣をつけ、動きや状況を見ながら声かけをし失敗が減るよう努力している。 | 24時間シートで排泄パターンを把握し、トイレに誘導することで失敗を防いでいる。排泄の習慣を改善することによりリハビリパンツから布パンツに向上した事が3例ほどある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を活用し、食事、飲水、運動、マッサージ等で便秘にならない努力をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 無理強いせず、本人の意思を尊重し一人ずつ出来ることをしながら、毎日楽しんでいた。 | 毎日入浴を提供している。浴槽には座位リフトが設置されているので、身体機能が低下した場合でも安全に入浴できる。浴室、更衣室とも掃除が行き届き、清潔な入浴環境が視認された。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 必要時自室で休息したり、夜間眠りやすい温度調整をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師在中しており又各自の服薬している薬についての効能書きを記録用紙と共に閉じており、誰でも確認できる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 気分転換に散歩、永遠の家へ訪問、ボランティアの活用、掃除、洗濯、家事と役割を持っていただけよう努力している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節に合わせて外出をしたり、行事に参加したり、散歩をしたり個々の体調を考慮しながら行っている。 | 天気がよければ近くの公園まで散歩に行き、コースからは富士山の眺望もよい。月に1～2回は自動車と一緒にドライブに行き、その際には季節の花を見学することも多い。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 日常は持っていないが、買い物時、各自の買い物をするとき支払いをすることがある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 制限はしていない。手紙を書ける人はいないが、来たお便りをみて懐かしそうにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節によって部屋の飾りつけ、居心地の良い空間作りをするよう工夫している。 | 玄関や共用空間には生花が飾られ、足踏みミシンや食器箆筒などアンティークな家具が家庭的な雰囲気を感じさせる。自然の空気を取り入れて室温調整し、加湿についても注意している。広々としたウッドデッキを備え、利用者に活用されている様子が見受けられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングでおしゃべりをしたり、廊下の椅子で一人ゆっくりしたりと思いいの場所で寛いでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 趣味のものが置かれ、壁には家族の写真、好みの絵などがある。居心地の良い空間を作っていきたい。 | クローゼット内に箆筒やコンテナを収納でき、すっきりとした室内が実現されている。ベットの布団やマットは天日干しされ、温かく自然な香りが感じられる。居室の窓は屋外に出入りできるので、防災上も安心できる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 残存機能を生かすことができるよう、個々にあったサービス(自立から見守り)を心がけている。 | | |